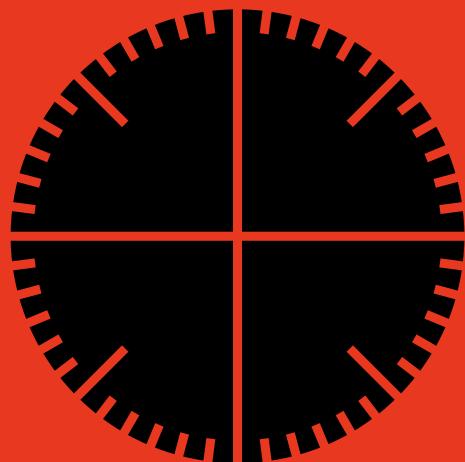


DESIGNPHIL

NEWS LETTER

2017 VOL.28

変化の先へ



NEWS LETTER

2017 VOL.28

変化の先へ

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第28号

発行日 | 2017年8月25日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058 FAX 03-5789-8470

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー9F

www.designphil.co.jp

PRESIDENT MESSAGE

変化の先へ



代表取締役社長
会田一郎

68期を迎えるのは変化への対応です。

社長に就任以来ほぼ毎年言い続けていることであり、新鮮味のない言葉ですが、その意味するところは大きく変わり続けています。対応のみならず、変化を先取りしていくことなくして企業は勝ち残ることはできません。私が直感していることは、先が読みにくいやうに無難な経営・営業・商品開発でいこうと「守りに入るな!」ということです。いかに重要な変化を先取りして次の可能性を広げるか?が不可欠要素であり、打って出なければ、後で見回す激変した景色に、居場所さえなくなるのが現在のめまぐるしい変化なのです。

先日アマゾンがホールフーズというオーガニックフードの高級スーパーを買収したことが大きなニュースになりました。リアルな書店、決済さいらいいコンビニに続き、どのような未来を出現させるのでしょうか。小売りの新形態はもちろん、人工知能、宇宙開発・・・過去22年間で70近い新規事業を開拓し、内18は失敗し撤退。確実に成功することが重要なではなく(それは不可能だ)創業精神をもって挑戦することが何よりも大切という考え方です。

創業者ジェフ・ペイズ曰く、創業精神の衰えは「死を伴う停滞」。攻勢に出る機は今!なのです。

では、私たちにとって対応、または先取りが必要な変化とはどのようなものでしょうか。

「コモディティ化」

100円均一ショップに代表される商品の均一化、低価格化・・・躊躇なく買って消費する大量短期消費化を指します。この変化に対応するには、高級化など異なる価格帯域に移動するか、仕様や素材で100円化を不可能ならしめるか、さらにはブランド化しかありません。

「市場成熟化」

日本は高齢化最先端の国であり、生産人口の大幅減はさらに加速します。人口構成の変化はマジョリティー生活者の嗜好の変化であり、商品の機能やデザインにおいて大人社会への対応が求められるようになります。すなわち、商品やパッケージをシンプルで高品質、分かりやすくハイテクな(過剰でない)ものに変えていくことが必要なのです。

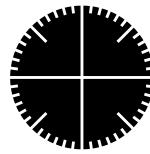
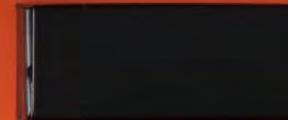
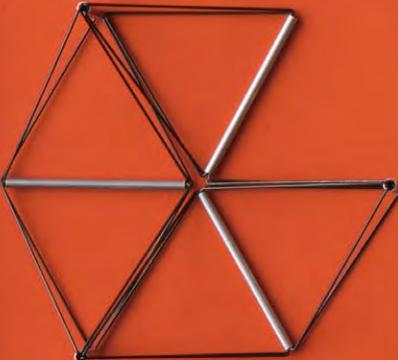
「新しい技術」

OECD加盟国で日本の仕事の生産性は35ヵ国中20位です。そしてAIに置き換えられる仕事が最も多いとも言われています。しかしそれは必ずしも悪いことではありません。合理化余地、生産性拡大の余地が大きいということであり、クリエイティブな仕事に費やせる時間が増えることに他ならないからです。新しい価値を生み出すためには、新しい技術から遠ざからずに触れていくことは重要です。

「グローバル化」

今日、日本の街を見ると、10年前とは比べものにならないほどにボーダレス化しており、世界中の人々が私たちの身の回りの情報さえ簡単に手に入れることができます。「トラベラーズファクトリー・ステーション」の限定品を開店初日に買いに来る人を見ていると、まさに時差無し、国境無しです。購入者が多様化することは、パッケージやウェブサイトの多言語化、視覚化(右脳に訴えるデザイン)が市場拡大のため求められるのです。

以上が、現時点において私が考える、先んじて対応を求める変化ですが、当然、時代の流れとともに更なる変化が起こり、環境も変わっていきます。私たちは見え難い未来をチャンスと捉え一步を踏み出してまいります。



新ブランド
「PLOTTER」誕生

2017.9.23 DEBUT!!

クリエイティブワークを愉しむ人のため
のさまざまなツールを展開する新たな
ブランド「PLOTTER(プロッター)」が
本年9月に誕生します。

PLOTTER

plotter(プロッター) [NOUN(名詞)]

No 1—Planner / Organiser / Strategist

—計画する人 / 主催する人 / 構想する人—

No 2—Tools to make drawings and designs.

—創造と表現のための道具—

No 3—Methodology for thinking.

—“考え方”そのものを考える方法—

No 4—Those who change the context.

—“未来”という未知のストーリーを描く人—

No 5—Tools for change-makers.

—未来を構想し変化を生むための道具—

PLOTTER とは About "PLOTTER"

[計画する人、主催する人、構想する人]を表す言葉。

創造力で未来を切り拓く人=「PLOTTER」と定義しました。

ブランドコンセプト CONCEPT

クリエイター、コンセプター、起業家、経営者、研究者、職人など、あらゆるクリエイティブワークを
愉しむ人たち=「PLOTTER」が、最高のアイデアを生み出し、発想をカタチにし、新しい世界を創り
上げていくための道具を提案していきます。

また、日本をはじめとした世界の職人が有する高度な技術と洗練されたデザインを融合させた、
シンプルで長く愛用できる道具作りを追求します。

当社の豊富な経験分野であるステーショナリーを軸に、「PLOTTER」たちの創造性を喚起し、
未来を描くさまざまな道具を展開していきます。



第一弾は ステーショナリーラインを発売

こだわりの一枚革とオリジナルバックプレート、リングのわずか3パーツで構成された究極の『6穴リングレザーバインダー』。創造性を刺激する新しいカタチや使い方を提案するリフィルラインアップ、さらにそれらをサポートする『アクセサリーツール』など、新しいアイデアを盛り込んだプロダクトを揃えました。



こだわりの素材とシンプルなつくり

日本をはじめとした世界の職人が有する高度な技術と洗練されたデザインを融合させた、シンプルで長く愛用できる道具作りを追求します。

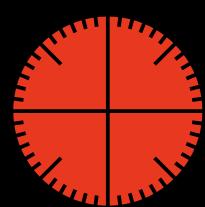
創造力で未来を切り拓く人

クリエイター、プランナー、コンセプター、アーティスト、起業家、経営者、研究者、職人、学生etc.

ロゴマークに込めた想い



時計や羅針盤、日の丸をモチーフにした「円」というシンプルな造形に、メモリの精密なディテールを施しました。メインカラーはオレンジと黒。素材やつくりのよさを引き立てます。



シンプルで直感的な道具

プランナー・オーガナイザー
スケッチブック・図面・描画ツール・アイデアシート
メモ・アイデアノート・発想ツール
ガントチャート・ToDoリスト など

開発者メッセージ

昨今、AI(人工知能)の驚異的な発展により、それが人々の仕事を奪ってしまうのでは?という記事をよく目にします。しかし、それは果たして現実のものとなるのでしょうか。一方で、私たちのようにステーショナリーなど人に寄り添った道具を作る側はアナログこそ大事だと何気なく訴えかけます。このギャップを埋めるものこそが、人間らしい個性溢れる“創造力”であり、クリエイティブであることがAIと上手に共存し、これから時代を生き抜く術なのではないかと考えます。「PLOTTER」は創造力で未来を切り拓く人であり、クリエイティブワークを愉しむ人のことです。なにも大げさな発明やイノベーションでなく、学校で、職場で、生活の中で、常に発想していることがクリエイティブワーク。かつて、AINシュタインが「単調さと孤独は創造性を刺激する」と名言を残したように、「PLOTTER」は豊かな創造力で未来を切り拓く人の助けになる、シンプルで直感的な道具を届けてまいります。

「PLOTTER」プロデューサー 斎藤崇之



4月27日(木)、JR東京駅地下1階改札外「グランスタ丸の内」に、国内3店舗目となる「トラベラーズファクトリー ステーション」がオープンしました。日本の鉄道の出発駅、東京駅。ここから始まる電車の旅を、もっと楽しくワクワクしたものにしたいという想いで作った新しいアイテムをはじめ、さまざまな旅の道具を揃えました。



電車旅をテーマにした オリジナルアイテム

架空の列車トラベラーズトレインをモチーフにした東京駅限定のラインアップ「ステーションエディション」や、東京駅舎をモチーフにしたラインアップ「東京ステーション」など、電車旅をテーマにしたオリジナルアイテムを多数展開しています。



こだわりの レジカウンター

お店の顔となるレジカウンターは、貨物列車をイメージして実際に使われていたコンテナを分解し、組み立てたもの。プロデューサーとデザイナーが足を運び、いくつものコンテナから、お店のイメージに合うものを探してきました。ところどころにあるサビや傷がいい味を醸し出しています。



電車旅の気分を 盛り上げるディスプレイ

電車のレールと枕木を使った書棚、スタンプコーナーのテーブルの足には電車の車輪を用いるなど、鉄道駅ならではの雰囲気に仕上げました。旅の気分を盛り上げます。



東京駅限定の スタンプを押して旅に出よう

店内にはスタンプコーナーも設置。47都道府県各地の名所や特産物のモチーフを楽しくデザインしたスタンプと、東京駅舎がモチーフのオリジナルスタンプが押せます。日本各地の駅でスタンプラリーを楽しむようにノートのカスタマイズができます。





ORIGINAL ITEMS オリジナルアイテム

「トラベラーズファクトリー ステーション」で展開する限定アイテムをご紹介します。
架空の列車トラベラーズトレインをモチーフにした「ステーションエディション」と東京駅舎をモチーフにした「東京ステーション」。どちらも旅気分満載、お土産にもぴったりなアイテムを揃えました。

PICK UP 01 STATION EDITION



「トラベラーズノート」の革カバーに金箔でトラベラーズトレインのロゴを表現。リフィルの表紙には店頭オリジナルスタンプを押すことができます。東京駅からはじまる電車の旅に。

PICK UP 02 TOKYO STATION



東京駅舎をモチーフにした「東京ステーション」ノートリフィルやブラスタグ、コットンバッグなどのラインアップです。東京を訪れた記念にいかがですか。

PICK UP 03 COFFEE CANDY TOKYO STATION



中目黒の老舗飴工場と作った、人気のトラベラーズファクトリーオリジナルのコーヒーキャンディの「東京ステーション」オリジナルパッケージ。レンガをイメージしたボックスに駅舎を金箔で表現しました。

※『トラベラーズノート』は株式会社デザインフィルの登録商標です。

※JR東日本商品化許諾済、JR東海承認済、JR西日本商品化許諾済、JR九州承認済

OPENING オープニング

初日は開店前からたくさんのお客さまにお越し頂きました。遠方から駆けつけてくださった方、海外からのお客さまも多数いらっしゃいました。予想以上のお客様の数にスタッフもびっくり。嬉しい反面、長時間お待たせてしまい申し訳ない気持ちもいっぱいでした。そんな中、お客様からはたくさんの温かい言葉や笑顔をいただき、本当に嬉しく思いました。



USER'S VOICE ユーザーの声

東京駅限定に一目惚れです。

Can't wait to visit the new Factory this summer!

念願の「トラベラーズ ファクトリーステーション」に行きました。都道府県スタンプがかわいい!全種類押してきました!

So excited I'll be in Tokyo just after this store opens!! Can't wait!!

『トラベラーズノート』を持って、列車の旅に行きたくなりました。

2011年『トラベラーズノート』の基地として、東京中目黒の路地裏にトラベラーズファクトリーをオープン。その場所を起点に、さまざまなあたらしいプロダクトが生まれ、イベントなどを通じて多くの仲間たちと出会うことができました。

2014年には世界への旅の出発点、成田空港に「トラベラーズファクトリー エアポート」をオープン。日本から世界へ発っていく人と世界からやってきた人が行き交うこの場所で、たくさんの旅人たちと出会うことでの『トラベラーズノート』の世界が大きく広がりました。

100年以上にわたり日本の鉄道の出発駅として、たくさんの旅人たちを迎える、見送ってきた「東京駅」。そんな場所に「トラベラーズファクトリー」があったら、のんびり車窓を眺めながら進んでいく電車の旅で、『トラベラーズノート』を開くことで鉄道の旅がもっと楽しくなるかもしれない。さらに、ここを起点に日本の各地を改めて旅をしてみたり、憂鬱な満員電車での通勤や通学さえも旅するような気分になれたらいいな。そんな妄想から構想が始まりました。

寅さんの旅に憧れて、青春18切符を手にして東京駅へ向かったあの頃。発車ベルが鳴り響き、新しい旅のはじまりを告げると、車輪の回転とあわせて心臓の鼓動が高まり、期待と不安に胸が張り裂けそうになる。そんな懐かしく輝かしい旅の記憶がよみがえてくるような気分です。

「トラベラーズファクトリー ステーション」からはじまるあたらしい旅にご期待ください。

トラベラーズカンパニー 飯島淳彦

Diamond memo

ダイヤメモ



M SIZE



L SIZE



S SIZE

最初に生まれたのがMサイズ。ビジネスマンのワイシャツ胸ポケットに収まりが良く且つ出し入れもしやすいサイズを試行錯誤した結果、ポケットより一回りだけ小さくした123×76mmのサイズに。日本初の両面使えるポケットサイズメモの誕生です！

Mサイズが普及してから数年後、開発者が寒冷地を訪れたときのこと。作業着と軍手姿の作業員をみかけ、「軍手をはめたまま取り出せるサイズのメモがあったら」ということで生まれたのがLサイズ。大きめのポケットでもスムーズに取り出せます。

M,Lときて、当時女性の間で流行っていた小ぶりのハンドバッグに入るサイズを、ということで、女性の手にも収まる小さなメモ、Sサイズが誕生しました。試作段階で女性社員にメモを持ってもらい、最適なサイズを決めました。

『ダイヤメモ』の ここがスゴイ！



POINT 汗や水に強い 01 丈夫な表紙

日本初の樹脂製表紙です。汗や水に強いほか、ポケットに入れたまましゃがんでも折れ曲がる心配なし。適度な硬さも備えているため、立ったままメモを取ることもできます。また、ポケットに引っかかる角を丸くしています。

POINT ダブルリング 02 を採用

メモなのにダブルリング。当時としては画期的だったリングメモに加え、中紙をしっかりとホールドするダブルリングを採用しています。中紙がずれにくく安定して書きやすい設計です。

POINT 両面使える 03 薄型メモ

裏表書けるメモも『ダイヤメモ』が初めてなのです。「持ち歩くメモなので薄い方が便利。両面にすれば(当時一般的だった)片面メモの倍使うことができる」という発想から生まれました。

POINT 書き心地の 04 こだわり

中紙に使用しているのはなめらかな書き心地で、にじみにくく、裏抜けにくいオリジナル筆記用紙の「MD用紙」(ホワイト)。両面使いにも、長期保存にも最適です。

POINT 緑色の罫線と 05 4分割

罫線色は、ペンの基本色である黒・赤・青、どの色で書いても邪魔しない淡いグリーン。4本の太い罫線は、内容を簡潔にまとめたり、スケジュール管理などをアシストします。※M,Lサイズのみの仕様です。

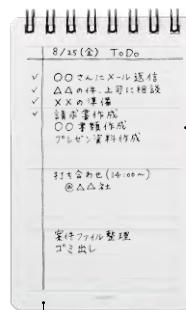
現代では当たり前になっている、表裏両面書けるポケットサイズのリングメモ。実は「ミドリ」の『ダイヤメモ』が日本で初めて発売されたことをご存知ですか。

『ダイヤメモ』が誕生したのは今から56年前の1961年のこと。日本は高度経済成長期まっただ中。当時はメモといえば電話の隣に置かれ使い捨てされるもので、外に持ち歩く発想はありませんでした。そこで、多忙に働くビジネスマンが「外出先で使えるメモ帳」として開発されたのです。

使い方 いろいろ

IDEA 01

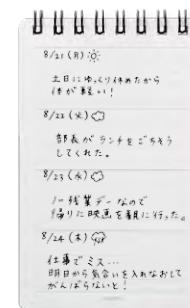
チェックリスト



メモを左端上下にある「・」でつなぐと、チェック欄が作れます。

発売当時は、四季・四半期・麻雀・ゴルフなど、日本は「4」にまつわる行事や出来事が多いことから1ページを4分割にしました。ライフスタイルも働き方も異なる現代におすすめの『ダイヤメモ』活用法をご紹介します。

IDEA 02 ひとこと日記

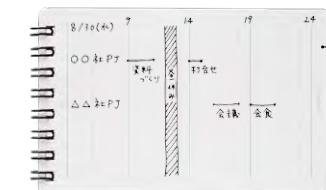


4分割を活用して、その日のちょっとした出来事を記す簡易版日記として。

1日1枠で、1週間分のひとこと日記が書けます。

IDEA 03

ガントチャート



『ダイヤメモ』を横にし、4分割の太い罫線上に時間を記入すると、簡易版ガントチャートに早変わり。電車など移動中にさっと取り出し、スケジュールの管理ができます。





ISOT(国際 文具・紙製品展)2017

7月5日(水)～7日(金)に東京ビッグサイトで開催された「ISOT 2017」にブースを出展しました。本年のテーマは「GROW～文化を育てる～」。創設以来、当社のプロダクトは文化の入り口でありたいと願い開発を行ってまいりました。文化創造、発信を旨としてきた「デザインフィルの製品」というアウトプットをテーマ「GROW」で表現しました。ブース内には、天井に向かって伸びる紙紐で当社の成長(GROW)を表した、デザインフィルの森が出現。それぞれの森では、知識、機能、文化など、人々の生活を豊かにするプロダクト(モノ)を経験(コト)とともにご紹介しました。

第26回 日本文具大賞 デザイン部門の優秀賞を受賞したミドリ『ブロッククリップ』をはじめ、当社の主力製品である『MDペーパープロダクト』、日記、色紙など、定番アイテムと新製品のご紹介を行いました。会期中はたくさんのお客さまにご来場いただきましてありがとうございました。



紙博出展

2017年4月15日(土)、16日(日)
東京都立産業貿易センター東館7F展示室

手紙社が主催する「紙」にまつわるアイテムが一堂に会す「紙博」に、「Chotto」ブースを出展し、楽しいラッピングのご紹介を行いました。両日ともたくさんの紙好きなお客さまにお越しいただきました。クリスマス、バレンタインデーとラッピング需要が高まるシーズンに向けて、より一層盛り上げてまいります。

わたしだより®

前号でもご紹介した『わたしだより』が、北海道、富士山、沖縄の3エリアで新たに発売となりました。活版印刷ならではの風合いを生かし、各地の食べ物や建物などをデザインしています。既発売の製品も含め、「自分宛に出す新しい手紙のカタチ」として少しずつ認知されています。今後も当社が推し進めている手紙文化創造の一環として、手書きの手紙の楽しさを訴求してまいります。



www.midori-japan.co.jp/chotto



www.watashidayori.jp

「PR誌第27号」(2017年2月10日発行)に関するお詫びと訂正

P.11 STORY

本文 誤) :連用日記が誕生したのは1991年
正) :連用日記が誕生したのは1960年代初め

歩み 『幾歳月』の発売年

誤) :1991年
正) :1960年代初め

P.13 TOPICS

香港と上海の画像が逆に掲載されていました。
訂正でお詫び申し上げます。

編集後記

1950年の会社創立から67年。STORYで取上げた『ダイヤメモ』をはじめ、時代に即した、新しい価値や経験の発信を続けて活動してきました。IOT、AIなど先進技術が発達していく一方、手を使って脳を刺激するアナログ的経験もなくなることはないと思います。これからどんな時代になっていくのか想像がつきませんが、心豊かになるステーショナリーを皆さんにお届けしていけたら嬉しいです。(編集長M.N.)